

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

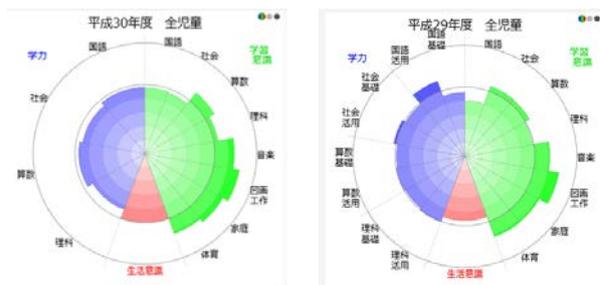
学校経営中期取組目標
<p>○一人ひとりを大切にしながら、地域と共に子ども達を育てていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図りながら、学校教育で育成すべき資質・能力を明確にし、「何を」「どのように」学ぶかを視点に授業改善を行います。 ・子ども達が自己有用感をもちながら、「なかよく たのしく げんきよく」学校生活が過ごせるようにします。 ・健康の大切さを知り、子ども達が自ら健康・体力づくりに取り組めるような生活習慣が形成できるようにします。 ・温かい地域の教育力を感じながら、社会とのつながりを意識し、「まち」に生き、「まち」を誇れる心を育てます。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
<p>確かな学力 (学習指導)</p> <p>担当 学力向上</p>	<p>基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。</p>	<p>読書タイムを昼から朝に変更することで、朝落ち着いて学習に入れるように変更する。4年～6年でブックバックを用意し、自ら辞書をすぐに活用できるようにする。スキルタイムでは学年に応じて一分間スピーチを行い、話す・聞く力を育成する。昨年度に引き続き、自主学習を全学年で実施し、家庭学習の習慣がつくようにする。</p>

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



昨年度に比べ、横浜市の平均とほぼ同じ結果となった。学習意識は国語を除いて市平均を上回る結果となった。生活意識では、昨年度と比較し、市平均を下回っているが、少し意識が高まった結果になった。この結果から、国語の学習を中心にして話すこと、聞くことを大切にした表現活動を日常的に行い、児童一人ひとりが意欲をもって参加することができる、「分かりやすい」「分かるようになった」と実感できる授業を実践していく必要がある。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：全体的に、話す・聞く能力および言語についての知識・理解が市の平均を下回っており、課題がある。
- 算数科：「数学的な考え方」「技能」は市平均を超えている学年が多い。一方で「知識・理解」では市平均を下回っている学年の方が多く結果となった。
- 社会科：「知識・理解」「技能」「思考・判断・表現」はほとんどの学年で市平均をやや下回る。
- 理科：「知識・理解」「思考・表現」は市の平均とほぼ同じであった。「技能」については市平均を下回っている学年が多く課題である。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成26年度から28年度過去3年間の経年変化の状況から、学校全体として高まっている状況が見られ、特に、学習意識や生活意識は確実に高まっている。学習意識は市平均を大きく上回った。経年変化の状況から、スキルタイム、読書タイム、自主学習などを活用し基礎基本の定着を図るとともに、各学年・各教科において自分の考えを表現・交流し、友達と学ぶ楽しさに気付く授業づくりを推進していくことが重要である。

3 令和元年度 学年としての具体的取組

1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表現したりしながら対話するように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

2 学年

- 生活科等で、子どもの興味・関心を引き出す具体的な活動や体験を通して学習をしていき、自分や友達のよさを発見できるようにする。
- 「話す・聞く・書く」力をつけていくために、教科だけでなく日常的な活動の中で言葉のやり取りができるように指導する。
- 自分の経験と結び付けて、感想や考えをもつように指導する。

3 学年

- 大事な部分をはっきりさせ、要点をまとめて話し合えるよう日々の授業の中で意識づける。
- 書こうとすることの中心を明確にして、書くことができるように指導する。
- 理科、実験・観察を通して得た知識がしっかり定着するよう、結果から考察し、まとめられるよう指導する。

4 学年

- 各教科で基礎学力の定着を図るために、基本的な問題や課題を繰り返し学習させる。
- 算数科では、習熟度別授業を実施し、全体の学力を伸ばすようにする。
- 学習したことを自分事として生活の中に取り入れることができるように、体験的解決的学習を多く取り入れていくようにする。

5 学年

- 『横浜の時間』等で説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら話し合うよう指導する。
- 関連付けたり分類・整理したりして考える学習と振り返りを計画的に位置付ける。

6 学年

- 教科等の学習で今まで身に付けた様々な文章を書く力を自覚的に生かすことができるようにするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 曖昧な点を明確にしたり、違った視点を打ち出したりしながら話し合うように指導する。
- 関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを計画的に位置付ける。

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。
- 子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。